

学 会 録 事

会 員 移 動

(昭和44年12月1日から昭和45年3月31日まで)

新 入 会 (9名)

住 所 変 更 (5名)

退 会 (4名)

管 原 兼 男, 深 山 尚 男, 柳

進, 日 野 淑 美

昭 和 44 年 度 庶 務 会 計 報 告

(昭和44年4月1日から昭和45年3月31日まで)

庶 務 報 告

1. 昭和44年4月1日 本会事務局が神戸大学理学部生物学教室に移り、新幹事に次の諸氏が委嘱された。坪 由宏、萩原 修(編集)、高橋永治(会計)、熊野 茂(庶務)、榎本幸人(幹事)。
2. 昭和44年4月3日 東京家政大学で懇談会を開催、出席者41名。
3. 昭和44年4月25日 「藻類」第17巻、第1号発行。
4. 昭和44年8月25日 「藻類」第17巻、第2号発行。
5. 昭和44年9月1日 岩本康三氏が幹事を委嘱される。
6. 昭和44年9月27日 神奈川県労働福祉センターで午前9時半より講演会、正午から評議員会、午後3時より総会開催、出席者72名。議事 1) 議長に渡辺篤氏を選出、2) 庶務会計報告、3) 協議決定事項 イ、予算案可決、ロ、会則の1部改正(会費値上げに伴うもの)ハ、投稿規定の一部改正:文献引用形式の例を示した(第5項)。ニ、藻類の英文略号を Bull. Jap. Soc. Phycol. と決めた。(詳細は本誌17(3)129—132を参照下さい。)
7. 昭和44年12月25日 「藻類」第17巻、第3号発行。
8. 昭和45年3月31日 現在会員数585名。

会 計 報 告 (昭和44年度)

収 入 の 部		支 出 の 部	
会 費	285人 (411件) 291,446円	印刷費	17巻 1 180,200円 <sup>円</sup>
臨時会費	6人 (6件) 1,960		2 98,000
バック	{ 本誌 348冊 Index 6冊 117,517		3 136,500
利 子		511	発送費
			2 5,740
			3 6,745
		通 信 費	26,227
		消 耗 品 費	29,363
		運 送 費	10,592
		幹事手当・謝礼	31,500
		換金手数料	940
小 計	411,434	小 計	531,667
前年度繰越金	334,454	次年度繰越金	214,221
総 計	745,888		745,888

## 日本藻類学会宛寄贈文献

(昭和44年4月1日—昭和45年3月31日)

—雑 誌—

- 日本菌学会報 9 (3) 1969, 10 (1) (2) 1969  
 日本菌学会雑報 1969  
 南極資料 (35), (36) 1969  
 東京大学海洋研究所業績集 (7) 1968  
 国会図書館逐次刊行物目録 1966, 1967  
 Acta Botanica Fennica (80), (81) 1968, (86) 1969, (87) 1970  
 Acta Biologica Venezuelica 6 (3,4) 1968, 54 (1-12) 1969, 55 (1) 1970  
 Bulletin of the Ocean Research Institute University of Tokyo  
 БОТАНИЧЕСКИЙ ЖУРНАЛ. (3) 1968, (4) 1969  
 Memoranda Societatis pro Fauna et Flora Fennica (44) 1968, (45) 1969  
 Phycos 7 (1,2) 1968  
 Scientific Papers of the Institute of Algological Research, Faculty of Science Hokkaido University 6 (1) 1969

—別 刷—

- BRESLIN, S.D., (1968) Statolith Differentiation in *Aurelia Aurita*; J. Exp. Zool., 169 (4),  
 TIMO, J.N., (1969) Electron Microscope Observation on the Shell Gland Mucosa of Calcium-deficient Hens; Anat. Rec., 164 (2),

## 本学会懇談会

日本水産学会年会を機に昭和45年4月2日午後6時から、全海苔会館会議室において本学会懇談会が開催された。会は岩本康三氏の司会により広瀬弘幸会長のあいさつで始まった。会長はあいさつの中で昭和46年8月に開催される第7回国際海藻学シンポジウム、本年パリで11月に開催される藻類の世代交代と生活史に関する国際シンポジウム、および本年10月に松山で開催される本学会総会などについての報告と協力要請があった。

次いで、山田幸男名誉会長の音頭でビールの乾杯をひき会食に移った。つづいて、最北札幌の渡辺真之氏、最南鹿児島島金沢昭夫氏、紅一点の Miss G.E.Kinner, 中には興にのってエンドレス・テープの如きスピーチまで交えて全員の自己紹介が笑いのうずを巻き起して続いた。寝たけなわも過ぎた頃、最近インド国より招かれて主として藍藻の生理・分類・生態に関する初めての国際会議に出席された渡辺篤氏から「マドラス出席の段」と題する演講を同氏の貴重なスライドを觀賞しながら拝聴して、9時すぎ閉会した。ここに

会の開催に際して岩本康三幹事の胆入りで全海苔協会、恒星社厚生閣から多額の寄付を頂戴したことを付言して感謝の意を表します。

出席者（35名）

荒木 繁，新崎盛敏，有賀祐勝，Robert Esch，福島 博，広瀬弘幸，市村輝宜  
今田 克，岩本庫三，岩崎英雄，金沢昭夫，片田 実，喜田和四郎，鬼頭 鈞，  
Grace-Marian E. Kinner，小林 弘，熊野 茂，丸山 晃，三浦昭雄，宮田益忠，  
西浜雄二，大房 剛，岡崎彰夫，近江彦栄，桜井武雄，佐々田憲，瀬木紀男，須藤俊造，  
時田 郁，徳田 広，渡辺 篤，渡辺真之，山田幸男，山岸高旺，吉川春寿。

